TAKE FREE

介護を応援する情報誌〔カイゴタイムズ〕

介護Times【全国版】

6
Jun.2021

介護のこと新発見。
地域密着、
この街と共に。

DESIGN

“関わり方デザイン”を共に考え、介護施設に伴走する存在でありたい！『スケッター』

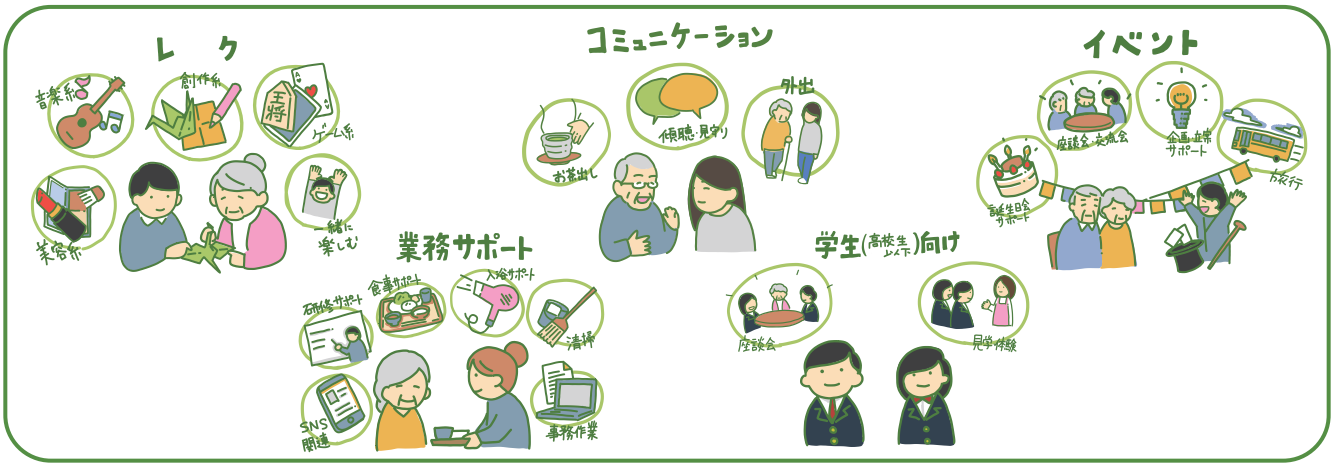
スケッターの皆さま

２０１９年に登場した「スケッター」は、介護福祉に特化したマッチングサービス。介護未経験者や無資格者でも登録できることが業界では画期的であり、そこには（株）プラスロボの代表取締役・鈴木亮平さんが掲げる「一億総福祉人構想」という世界観がある。今回は、実際に「スケッター」として活躍している北村紋世さん（今月の表紙の人）と「スケッター」に込めた熱い思いを語ってもらった。

「スケッター」とは？

「スケッター」は、人手を必要としている介護施設と、すきま時間を活用して働きたいと思っている方々とのマッチングのためのＷｅｂサービス。介護というと専門的なスキルや資格が必要であるイメージが強いが、実は身体介助以外で「資格がなくても介護現場でお手伝いができることはたくさんある」（イラスト参照）ことを世に広め、介護福祉に関わる「関係人口」を増やすことを目的としている。利用者はのべ２０００人を超え、事業者側の案件に対するマッチング体験率は首都圏では１００％を維持。２０２１年３月にはＮＨＫ「ニュースウオッチ９」でも紹介された。

介護施設で夏祭りの行事を手伝うスケッター



「みんなで助っ人になろう」令和の「互助文化」を築く

株式会社プラスロボ
代表取締役　鈴木 亮平さん

1992年生まれ。甲子園の強豪・仙台育英高校野球部出身。ITメディア編集記者、メディアベンチャーで編集長などを歴任し、2017年に起業。2019年に「スケッター」事業を立ち上げる。「スケッターは、人手を必要としている介護福祉現場と何かお手伝いをしたいと思っている人をつなぐ〝お手伝いプラットホーム〟であり、〝互助インフラ〟です」。目指すは、誰もが誰かに助けられ、誰かを助ける社会。「一億総福祉人構想」だ。

立ち上げメンバーの鈴木社長と営業担当 土光雅代さん
スケッターを文化にするために日々奔走

資格がなくても関われるように ハードルを下げた「スケッター」

鈴木　介護業界で働くことに関心はあるのに、「資格がないから」とハードルが高く感じている人もいます。そこで、「スケッター」では〝有資格〟という条件を取っ払い、〝介護福祉に関わる人を増やす〟という切り口でスタートしました。資格がなくてもできる配膳や洗い物、レクリエーションや利用者の話し相手というお手伝いすることで、専門スタッフの負担を軽減してあげる。隙間を埋める。そんなイメージです。北村さんとはスケッター初期から活動してきましたが、スケッターに可能性を感じた思い出はありますか？

北村　私はスケッターに入る前から〝傾聴〟の活動をしていたので、「80歳ぐらいの方が自分史を作るので話すことを書きとってほしい」という仕事があったとき、「私やりたい！」と申し出ました。でも、行ってみたら、その方は自分史を作ることより、誰かとお話をしたかったんですね。職員さんに「あの子と外出したいんだけど」と頼んで、外出もしました。これをきっかけにスケッターと関係なく、個人的に孫のようにかわいがっていただき、一緒に買い物などにも出かけるようになりました。普通の人材派遣だと、その時間だけを埋めて、「今日はご苦労様でした」で終わってしまうけど、スケッターのような関わり方は次に発展しやすいと感じました。

鈴木　いいですね！スケッターをきっかけに、関わってくれた人の仕事につながってくれたら理想的です。ただ、介護施設側は「何をお願いしていいのかわからない」、スケッター側は「自分に何が手伝えるのかわからない」という現状があります。何ができるのか、「お手伝いカタログ」のようなものを作って、もっと可視化できたらとも思っています。

正月行事で日本舞踊を披露するスケッター

藤井編集長　「囲碁将棋をしたい」という人もいますが、相手ができる人がなかなか見つからなくて、社協で探すしかなかったり……。そんなとき、スケッターに頼めばいいですね。とくに有料老人ホームやサ高住では、そういう対応ができれば利用者も増えるでしょうね。介護施設側が有資格者、無資格者を上手く使い分けることが大切ですね。縦割りで捉えていた施設の時間軸を見直して、人手不足を解消できるように、スケッターにはコンサル的な役割も期待したいです。

鈴木　そうですね。現場では何が大変で、どんな助けが欲しいのか。スケッターに何を依頼したらよいのか。「関わり方のデザイン」から一緒に考えたいですね。

北村　「関わり方デザイン」っていい言葉ですね。「コンサル」だと何か改善するところがあって、直していくというイメージですけど、「関わり方デザイン」は伴走していくイメージですね。

鈴木　今後のビジョンとして、学校教育にも力を注ぎたいと思っています。

高校や大学で「関わり方デザインをみんなで考えよう」と講義をすると、「こういうことで誰かの役に立てるんですね！」と発見してもらえます。学校関係はスケッターとしてのポテンシャルもあります。落語サークル、マジックサークルなどの大学生のサークル活動との融合も発信したいです。

北村　最近、就活生の面談のサポートをしていると、「誰かの役にたちたい」という人は多いんです。そんなとき、介護業界に就職しなくても、空いた時間にスケッターとして貢献する方法もあることを提案しています。見学やインターンだとハードルが高いですが、スケッターでお手伝いに行くと施設の普段の様子を見ることができます。

鈴木　新しいことには時間がかかるけど、これから「スケッターをやってみようかな。頼んでみようかな」という気運が高まればいいですね。介護施設に限らず、街の至るところでスケッターが活躍できる場所があります。令和に〝互助文化〟を残したいです。

介護の仕事がしたい人をサポートしていきたい！

スケッター　北村 紋世さん

スケッター設立当初から活躍してきた北村紋世さんは、大学生の頃から「おしゃべりやさん」という訪問活動を続けている。スケッターのなかでは「もんちゃんのおしゃべり相談室」で、利用者の悩み相談も行っている。

北村さん

小児医療や児童福祉に興味があった北村さんが介護業界に入るきっかけになったのは、福祉の勉強をしていた大学2年生のときの介護実習だった。

「今日はあなたとおしゃべりできて楽しかった、来てよかったわ」その言葉が嬉しくて、時々会いに行くようになった。介護サービスを利用する人＝身体介助が必要な人、ではないことを初めてちゃんと知った。「やることがない」「迷惑かけたくない」「死にたい」そんな言葉に隠れた想いを丁寧に受け取ることで、少しずつ前向きな言葉が聴ける。「聴いてくれて（聴かせてくれて）ありがとう」は互いの生きる力になると感じ、「おはなしやさん」（現在は「おしゃべりやさん」）というボランティア団体を立ち上げた。仲間を募り、施設に行って1時間ほどのおしゃべりをしてくる。30施設ほどを訪れ、言葉を引き出す力や場をつくる力がついたそうだ。

スケッターについて、「〝利用者と職員〟という関係だけなんて寂しいし、窮屈。施設内に〝助っ人〟がいることで、他愛もない会話が増えたり、職員さんは目の前のケアに集中できたり、家族や地域に発信できる情報が増えたり、いろんなプラスが生まれると思います。」

だが、北村さんが介護業界に就職しようとしたとき、「え、なんでそんな…」と家族の反応はイマイチだった。

「介護って、胸張って言えない仕事なのか……」と現実を受け止めながらも、グループホームで認知症ケアを学び、社会福祉士、介護福祉士と次々と取得。

「〝大変だ〟というだけでなく誇りをもって働けたら、自分の心も関わる人も家族も幸せになると思います。介護者の心の健康も大切。

キャリアコンサルタントの資格を活かして、介護の仕事がしたい人、在宅介護をしながら働く人のサポートもしていきたいです」。

ご主人の転勤で京都に移住された北村さんは現在育休中。復帰後は関西圏でスケッターを広めるキーパーソンになりそうだ。

首都圏のスケッターが秋田県能代市の介護施設に集まり、季節行事をお手伝い。職員や利用者さんと楽しい時間を過ごした。

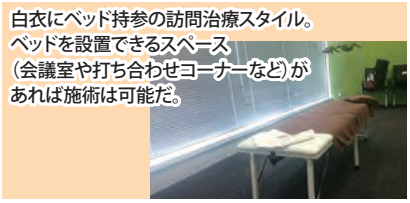
ライター 谷口 のりこ

STYLE

「〝ぐっさん〟という職業をやっているつもりです！」
折りたたみベッドを持って、今日も出張治療へ。

『ユラックス株式会社』代表取締役
「ぐっさん」こと柔道整復師 **山口 建臣** さん

4大都市を回った過酷な100時間ライブの同行に刺激を受けて、「待つ治療」から「訪問する治療」へ。治療院という〝お城〟をもたない選択もアリ！



白衣にベッド持参の訪問治療スタイル。ベッドを設置できるスペース（会議室や打ち合わせコーナーなど）があれば施術は可能だ。

整骨院に10年間勤務していた山口さんは、そのころモヤモヤした気持ちを抱えていた。身体の不調を訴える同年代の友達に「うちの治療院に来いよ」と言っても、「おれたち夜8時まで働いているんだぞ。おまえのところ7時までだろう」と叶わない。せっかく身に付けた自分の技術を大切な仲間に届けられない……。

そんなとき、大きな転機が訪れた。あるシンガーソングライターの100時間ライブにトレーナーとして同行した。身体の限界までギターを弾き、歌うアーティストを自分の技術で回復させ、共にやり遂げた達成感。この強烈な体験で、「待っていてはダメだ！」と悟り、外へ飛び出した。独立しても治療院を開業せず、「白衣を着て、折りたたみベッドを持って、企業に訪問して施術する出張治療スタイル」を始めた。

出張型の治療が軌道に乗ると、山口さん一人では手が回らなくなった。そこで同業者の仲間を募って、さらにビジネスを拡充。メディアからも注目を浴びるが、リーマンショックで契約企業数が激減。会社を解散し、再起を期して2010年に立ち上げたのが「ユラックス」という会社だった。鍼、マッサージ、整体などの資格をもっている個人事業主と提携した専門家集団。会社という組織にとらわれない「訪問型法人向けボディケア事業」のパイオニアになった。法人にとっては、社員の疲労解消、モチベーションアップにつながり、個人事業主たちにとっては、休日や空いた時間に出張して各自の能力を活かせる。ウィンウィンの関係だ。

起業当初、白衣を着て異業種交流会に参加していた山口さんは、その後、気の合った仲間を集めて、【F-style】と名付けている経営者の異業種交流会を主宰した。先にビジネスの話をするのではなく、まずは趣味の交流から。山口さんの人柄に魅かれて300人以上が集まった。「ぐっさん、この業界でいい人いない？」「この人どういう人？」と〝ぐっさんのフィルター〟に信用が寄せられている。「ぼくは人が好きなんです。整復師の〝先生〟と呼ばれるより〝ぐっさん〟と呼ばれたい。〝ぐっさん〟という職業をやっているつもりです」。

固定概念を取っ払って生まれた新しいビジネス、人的交流。その先にあるのは、みんなの笑顔だった。〝ぐっさん〟の挑戦には今後も目が離せない。

ライター 谷口 のりこ

ユラックス株式会社
http://www.youluckx.co.jp/

[事業内容] 訪問型法人向けボディケア、セラピスト育成、イベント・セミナー等の企画、運営

熱き経営者交流会「F-style」
http://www.facebook.com/groups/fstyle.ylx/

首都圏で活動する青森県出身経営者の会
http://aosuki.tokyo/

数年前から「部活動」と称して、ゴルフや釣りや山登り、マラソンなどの趣味の仲間が集う。人柄を知ってから、各自のビジネスにつながるのが理想だ。

世の中の福祉をHAPPYにするために。目の前のおひとりから。

『しーの さやか』スキルアップサポーター 椎野 紗綾香 さん

体験：視覚に障がいがあっても自転車で風を感じる事が出来ます♪

メガネと蝶ネクタイ、くるくるパーマで和んだ空気。授業がスタート。

丸眼鏡に蝶ネクタイ、くるくるっとしたパーマがトレードマークの椎野紗綾香さん（42歳）。福祉学校にて15年以上にわたり講師を務め、昨年退職。新しく〝しーの さやか〟として、福祉施設を支援する「スキルアップサポーター」をスタートする。

椎野さんが福祉の世界に足を踏み入れたのは、「おじいちゃん、おばあちゃんが好き♪」と進学した福祉・介護の専門学校から。卒業後は介護現場を経験し、その後は教える側に。「恩師である大好きな先生から母校で一緒に働こうと声をかけてもらいました♪」

学校では、授業はもちろん、担任や実習担当も。学生がお世話になる実習施設に足を運ぶ機会がよくあったという。「施設の皆さん、熱い想いを持って働かれています。学校に入学する学生は〝わざわざお金を払ってでもしっかり勉強をしたい人たち〟なんです。熱い職員さんに憧れます。私も現場の経験があるのでいつもいつもモチベーションが保てることばかりではないのはわかっています。課題もある中で未来の福祉を支える後輩に熱い指導をしてくれる職員さんたちに何かお役に立てることはないか考えていました。」

〝しーの さやか〟は、「ケアやコミュニケーションなどの研修」「採用・新人教育のアドバイス」「コンサルティング」の3方向から施設をサポートする。「職員さんから現場で研修をしてほしいとリクエストをいただいたことがきっかけです。同じ福祉業界の仲間として一緒にテーブルを囲みながら、運営や現場の架け橋となって一緒に成長したり、モチベーションをグッッとあげて♪より良いケアを考えていきたいです♪」と語る。

椎野さんは講師業を務めていた時代から、同行援護従業者養成研修「ｏｔｏｍｏスクール（運営：株式会社おとも）」の担当執行役員を兼任し、運営企画や講座などオールラウンドに対応する。

専門学校やｏｔｏｍｏスクールにて、多くの有資格者を育ててきた椎野さん。

「資格があるともちろん現場で活躍できます。他にも私のように講師や、福祉用品に関わったり、多様な働き方ができます。取得だけでなく、資格の活用も広げていきたいです♪」

これから新しく始まる〝しーの さやか〟。「まずは目の前のおひとりから。福祉業界をポジティブに伝えたい。」と終始「ＨＡＰＰＹ」をキーワードに語ってくれた。

専門学校時代はハロウィンなど行事等も全力で参加します。

学生時代の恩師が上司に。永年勤続の表彰も。

学校と福祉が大好きではつらつと学校生活を送っていた様子♪

ライター 藤川 悠子

人生100年時代に向けて、知っておかなくてはならない『お金を効率よく運用する知識』

どうも初めまして。『あなたのほけんがほっとけん！』で、おなじみのみなさまの相談の保険の〝窓〟口…ではなく…保険の〝橋〟口でございます！えー…いきなり金融機関の人間らしからぬジョークですいません（汗）

今回からご縁ありまして、こちらでお金にまつわる為になるお話を連載させて頂くことになりました。お金や保険のお話をわかりやすく、面白く？（どこがやねん！）『お金を効率よく運用する知識』をお伝えします。ここでは基礎的なことからお伝えできれば、と思いますので、なにとぞ温かい目でよろしくお願いいたします。

今回、私がみなさんに伝授するのは『時間分散』の効果です。基礎的なことではありますが、これを知っているか知らないかでは、後々のみなさんの人生で天と地ほどの差ができるかもしれません。それくらい大切な知識です。

百聞は一見にしかず。では、実際に下の図を見てください。

ここでいきなりクイズです！下記のA・B・C・Dの市場があったとします。この市場で、毎月毎月10万円投資する積立投資をしたとします。さて、1年経ったとき（11月時点で売り切ったとき）にどの市場が一番良い成果を出しているでしょうか？

この市場で、毎月10万円ずつ投資したら？

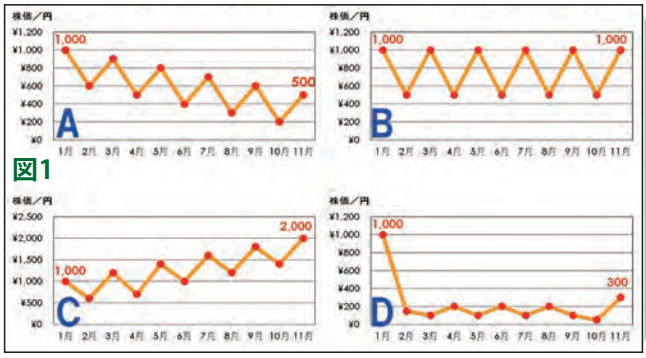


図1

となりを見ちゃいや～よ。もう、エッチ、、、

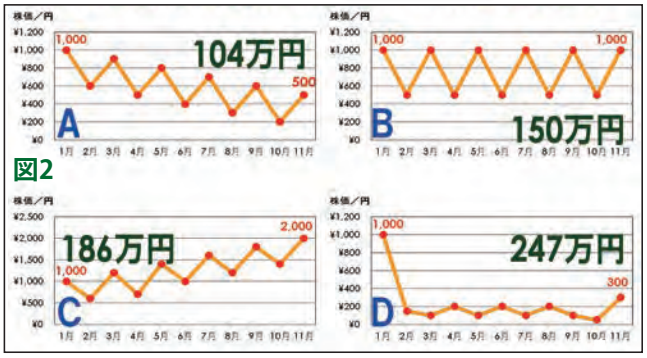
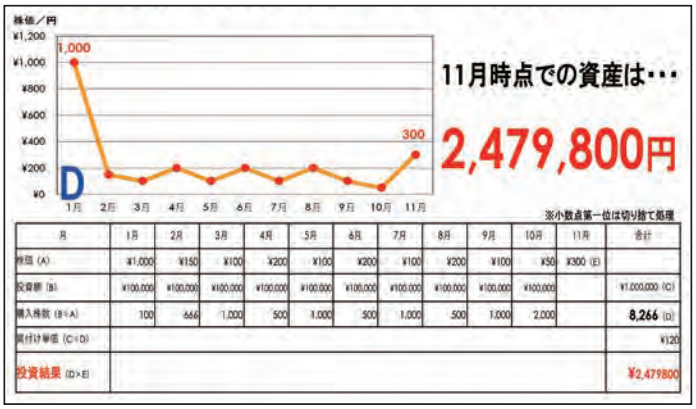


図2

正解はなんと株価、右肩下がりのDです！

実は図3のように、Dは2月以降株価が低い時にも、10万円分株を購入しますので、株数をたくさん購入できています！毎月毎月定時定額、決めた金額を買い続けることによって時間分散の効果で長期的に見ると、安定してお金を運用できる仕組みになっています。これを『ドルコスト平均法』と呼びます。投資信託はこの仕組みを使い、安定して成果をあげています。すごくないですか？しかし、これは仕組みの一つにすぎません。まだまだたくさんの仕組みがあります。続きは次回お話したいと思います。次回は『金利の力』をお伝えしたいと思っています。いかがでしたでしょうか？今回のお話を読んでいただき、もっと資産形成についてお話をききたい～！と思って頂けた方は、下記よりオンライン個別セミナーを開催しています。お気軽にお問い合わせください。では、このような機会を作って頂いたことに感謝してこの場を締めさせて頂きます。

図3



月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
株価（A）	¥1,000	¥150	¥100	¥200	¥100	¥200	¥100	¥200	¥100	¥50	¥300（E）	
投資額（B）	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000		¥1,000,000（C）
購入株数（B÷A）	100	666	1,000	500	1,000	500	1,000	500	1,000	2,000		8,266（D）
売付け単価（C÷D）												¥120
投資結果（D×E）												¥2,479,800

PS、先日、ミホという、私の妹が「私の名前の由来は何？」と父に聞き、「それはミホが生まれた年にミホノブルボンという馬が早かったからだよ」と、答え、「え～馬からとったの？さいあく～」と、言った妹に母がポツリと「よかったじゃない。ブルボンじゃなくて」と言っていました。おあとがよろしいようで。

オンライン生命保険セミナーはじめました

こんな方必見！！

・コロナで人に会いたくない
・忙しくて面談時間が作れない。

オンラインなら大丈夫！！

ソニー生命ライフプランナーの橋口真也です!!
相談実績100件を
こえる私がお話します!

◆申し込みはメールにてお願いいたします。

下記まで、申し込みのメールをお願いします。
件名に「生命保険セミナーの件」と入れて
本文にお名前・携帯番号を入れてください。

主催者　ソニー生命保険株式会社
京都ライフプランナーセンター第3支社第7営業所
ライフプランナー　**橋口　真也**

ソニー生命

〒600-8008　京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20　四条烏丸FTスクエア7F
TEL：075-212-8350　FAX：075-212-8351
携帯電話：090-5243-5956　E-mail：shinya_hashiguchi@sonylife.co.jp

QRコードはコチラ!

働く

福岡

一歩先ゆくダイバーシティ！「ハタラク」が叶える人生100年時代の認知症ケア

小規模多機能型居宅介護施設「てつお」
施設管理者　浦　幸寛さん

「認知症になっても自由に！」を叶えるケアを　浦さん

「ハタラク」は、小規模多機能型居宅介護施設「てつお」がヤマト運輸から委託された宅配事業の名前だ。てつおは、福岡県大牟田市手鎌地区にある。配達する内田アケ子さんは91歳。認知症を患い、この施設を利用している。内田さんは、「仕事は楽しかですよ」とにっこりほほ笑む。ハタラクについて、施設の責任者である浦幸寛さん（37歳）に話を伺った。

宅配事業のきっかけは年に数回の捜索願

認知症の内田さんは、たびたび自宅を歩いて出て行くことがあった。年に2～3回捜索願が出されるほどで、7時間歩き続け、隣の市で発見されたこともあった。長い間美容室を営んでいた内田さんは、朗らかで社交的な性格。「自分の行きたいところに歩いて行きたいんだろうな」と浦さんは思った。

ある時、浦さんは大牟田市職員の他、市内の企業、農協、学校などさまざまな組織の担当者が集まる地域共生フォーラムに出席する。大牟田市は、全国に先駆けて2001年から認知症高齢者の見守り活動を行ってきた自治体だ。2回目の会議の際、浦さんはてつおを利用する認知症高齢者の宅配業への就労を提案された。

施設に戻った浦さんは、内田さんに配達をしてみないかと持ち掛けた。すると「うん、よかよ。仕事があるならやりたい」とあっさりOKの返事が。家族も賛成。浦さんは少し拍子抜けしたそうだが、「肩に力が入りすぎないくらいがよかったのかも」と振り返る。

「配達の途中、街路樹や花を見るのが楽しくて」と内田さん

「もうやってみよう」本人、家族、スタッフも全員一致

しかし、宅配業界では障がい者の雇用はあったが、認知症高齢者の就労は例を見ず、宅配業者との契約は難航する。そ

こで市の担当者が上京してヤマト運輸の本社に掛け合い、業務委託の契約に至った。

「例えば、もし配達中に内田さんが転倒してケガをした場合、責任はどちらが持つのか？配達物を紛失したらどうするのか？認知症の内田さんに本当に配達ができるのか？考え得るすべてのリスクをヤマトさんと何度も話し合いました」と浦さんは回顧する。さまざまな問題を想定し、ヤマト運輸と議論を重ね、万が一に備えた。

「もうやってみよう。やってみらんとわからんよね」こうして２０１９年２月にハタラクがスタートした。

配達で生まれた住民とのつながり

「やってみたらもう人気者ですよ。町のみなさんが内田さんに声をかけてくださって」ハタラクを始めた当初、内田さんと浦さんの二人三脚の配達は住民から驚かれたと言う。しかしそれもつかの間。内田さんはあっという間に町のアイドル的存在になった。「今日は来んとね？」「元気しとっとね？」たくさんの住民が気にかけてくれるようになった。

高齢のため体調が案じられたが、内田さんは仕事を一度も休んだことがない。「楽しかですよ。頼まれたからには、やらんといかんですけん」と内田さんは笑う。配達はいつしか内田さんの生きがいになっていた。仕事を始めてから、外出して行方不明になることはなくなったそうだ。

視点をちょっと変えるだけで可能性が生まれる

浦さんは内田さんに宅配業を勧めた理由について、「内田さんは美容室を営んでおられたから、誰かの髪を切ってもらうこともできたと思います。でも私は内田さんの足の強さに注目したんです」と話す。

「私は利用者に〝自由〟にしてもらいたいんです。自分だって高齢になっても自由にしたいですから。そのためにどうしたらいいのかを常に考えていますね。内田さんは足が強いから、自由に歩いて欲しくて」と言う浦さんの言葉が印象的だ。

「視点をちょっと変えるだけで見えるものが変わってくる。１８０度も変えなくていい。ほんの１、２度でいいんです。その１、２度の中に、ものすごい可能性がある。それが介護の魅力ですね」と浦さんは語る。

人生１００年時代と言われる近年。ハタラクは、増加する認知症高齢者へどう対応していくかだけではなく、現役世代の私たちに「生涯働き続けるために大切なことは何か」を教えてくれるようだ。

※現在はコロナ禍のため宅配業は休業中。住民から内田さんを気遣う声が絶えないそうだ。

内田さんと浦さんの配達はまさに二人三脚。
住民との交流の様子。

ライター　秦　佐起代

活動

沖縄

介護福祉士の魅力発信と、地域への貢献を目指して

『うらそえ介護福祉士会』
会長 与那覇 涼さん

与那覇さん

沖縄県浦添市から、介護福祉士の仕事の魅力を発信していくことを目的に活動している任意団体「うらそえ介護福祉士会」。介護福祉士会とはあるが、興味があれば誰でも参加できる団体となっている。会長を務める与那覇 涼さん（44歳）は、他業種から介護業界に足を踏み入れた一人だ。今回は与那覇さんの経歴と共に「うらそえ介護福祉士会」を紹介したい。

地元とのつながりを大切にしたい

取材当日、ビーチサンダルがプリントされた「かりゆしウェア（沖縄のアロハシャツ）」で登場いただいた与那覇さん。このシャツは、うらそえ介護福祉士会のユニフォームだという。地元とのつながりを大切にしたいという思いから、地元の高校生が賞をとったデザインを取り入れたそうだ。

同会を立ち上げるきっかけとなったのは、岩手県釜石市が震災によって様々な連携に取り組んだ医療・介護・福祉の協力体制に共感したことがきっかけ。与那覇さんの住む沖縄は、首都圏と比べればまだまだ地域内のつながりは深い。しかしながら、少しずつ地域の集まりも少なくなり、中心部では希薄化も進んでいるのではないか、とのこと。また、沖縄の高齢化も問題になっているそうで「住んでいる人が、住んでいる人を支えていく必要があるんです」という。

「福祉って、もっと包括的に地域で考えないといけないと思っています」と話す与那覇さんは、同会の活動で「地域全体で介護を考えよう」といったセミナーなども行っている。

建築の世界から介護の世界へ

今ではヘルパーステーションでサービス提供責任者を務めている与那覇さんだが、高校卒業後からは18年間にわたって建築の

九州地区介護コンテストにて特別審査員として
実技デモンストレーションを行い会場を笑いの渦に！

仕事に。独立し、多忙な日々を送る中「なかなか人と向き合う仕事ではなくて、いつも眉間にシワを寄せていました」という与那覇さん。いろいろと経験する中で「この仕事は自分に合っているのかな？」と疑問に思うようになったそうだ。

ターニングポイントとなったのは、年男となる36歳。友人から介護の仕事の誘いを受け、この世界に飛び込んだという。実際には相当悩んだそうだが、そのころ読んでいた本に出てきた「人は人でしか支えられない」というフレーズが琴線に触れ、「ちょうど年男となるタイミングだし、やってみるか！」と決意に至る。

現場での経験を経て

早々にホームヘルパー2級（現・介護職員初任者研修）を取得し、デイサービスへの勤務が決まった与那覇さん。「授業では見て学ぶだけだったので、実践は緊張しました！建築の仕事では道具としてモノを扱ってましたが、今度は〝人〟ですからね…」と当時の緊張を語る。それでも、「先輩からの温かいアドバイスや介護をしている相手の笑顔とか、対〝人〟という温かさを感じました」と振り返る。

しかし、まずは覚えようと必死に業務をこなし経験を積むとともに、他業種から入ってきたからこそ見える問題がでてきたという。疑問や矛盾を上司に相談するにつれ、会社との考えにズレが…。結果、この時のデイサービスは退職することとなるが、「会社と自分の想いがズレると、いいケアにつながらない」と強く思ったそうだ。「介護とか福祉って、正解がない世界ですから。介護福祉士として、横同志のつながりで意見を出せる場所を作りたかったんです」。

地域への貢献を目指して

現在うらそえ介護福祉士会は、コアとなる8名および医師会のメンバーによる約10名が中心となって活動を展開している。「中心メンバーは、会社経営者や役職を持つ影響力が強い人ばかり。彼らの活動があるからこそ、自分の居場所があると思っています。このように一人ひとりの想いが集まることで、誰かを支える力が生まれるのではと。それが、この会がある意義なんです」。

さらに「〝誰もが楽しく学べて、自分の意見も言える場〟を目指していますが、進む方向は同じでないといけない」という与那覇さん。5年前には20～30代の若手メンバーを集め、ポジティブな「介護の3K」を話し合ったという。結果として5K（輝くかっこいい、活躍の場が広い、希望を持ち感謝される、会話・対話ができる、高収入）ができたとのこと。「介護福祉士は、問題となっている2025年までには、必ず社会の必要人材になります。胸をはって、本業である素敵な仕事を発信できる介護福祉士として行動し、いろんな職種の人たちと連携しながら地域の為に貢献したいですね」と話す。

加えて、今はまだ漠然としているが、もっと地域に密着したことにもチャレンジしたいという。「民生委員とはいかなくても、休みの日に隣の家の人に声をかけにいくとか。そうすることで、もっと優しい地域ができると思うんです！」

ライター 藤川 悠子

うらそえ介護福祉会
Facebook

うらそえ介護福祉会
LINE

ラジオも楽しくOnAir^_^

うらそえ介護福祉士会メンバーと
まちづくりプラン助成金で見事ゲット！ケアニン上映会につながる。

地域

コミュニティ重視の賃貸住宅から地域づくりの輪を広げる

東京

足立区西新井15部町会　防災部長
コミュニティ賃貸住宅
「PARCO CASA（パルコカーサ）」オーナー
田口　昌宏さん

賃貸管理会社　（株）ハウスメイトマネジメント
伊部　尚子さん

田口さん

伊部さん

町会参加を入居条件にして自然に地域に関わっていく

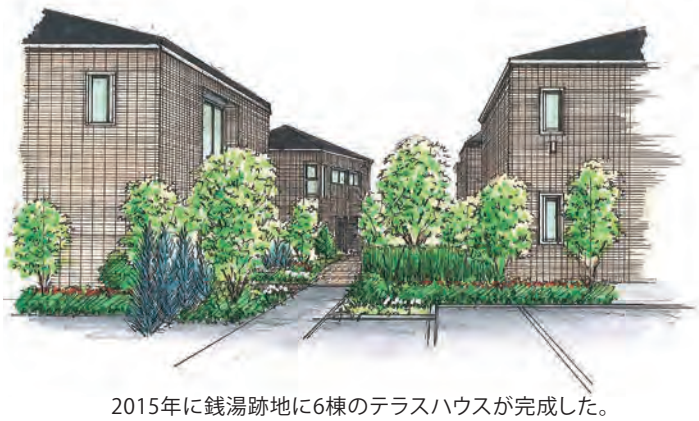
2015年の完成から約6年。足立区西新井で50年以上続いた銭湯は、「パルコカーサ」という賃貸住宅に姿を変え、地域交流を大切にする先代からの想いを引き継いでいる。

父親が銭湯を廃業した跡地を相続する田口昌宏さんら三兄弟は、将来分割しやすいように、最初から6棟の賃貸住宅を建てた。「退去する理由で多いのは近隣関係のトラブルなので、入居者同士が気軽に挨拶ができる賃貸住宅をめざしました」と田口さん。パルコカーサ立ち上げの段階から協力し、「コミュニティ賃貸」の名付け親でもある伊部尚子さんは、「コミュニティを重視した賃貸住宅の可能性を感じていたのですが、思いが一致する田口さんとなら実現できると思いました」とタッグを組んだ。

田口さんが入居者に求めた条件は、「他人の子供を叱れること」「町会の行事に参加できること」。つまり、住民みんなで子供たちを見守り、さらに入居者同士の交流にとどまらず、パルコカーサという賃貸住宅ごと地域に溶け込んでいくイメージだ。さらに、田口さんは「現金による手集金」という方法にこだわった。「町会費を払って、町会に参加している意識をもってもらいたかった。幾つかの町会イベントに参加して貰えば、町会費分は返ってきます」。

実際に、パルコカーサに隣接する公園での盆踊り大会、餅つき・ビンゴ大会などは子育て世代が楽しめるイベントだ。3か月に1回の公園清掃にも参加しているので、「田口さんのところの入居者の人だね」と顔見知りも増える。知っている大人が増えるということは、子供を見守ってくれる目も増えるということだ。

現在、12世帯に未就園児が10人、この6年間で11人も赤ちゃんが誕生したという子育て世代中心のパルコカーサは、入居者同士の交流も盛んだ。バーベキュー


2015年に銭湯跡地に6棟のテラスハウスが完成した。

（右上）50年以上地域に親しまれてきた「たちばな湯」の前で家族写真。「在宅介護で父親を自宅で看取ることができたことに感謝しています」と田口さん。
（左上）敷地内の広い通路にビニールプールを出せば、子育て世代の親子が集まってくる。
（下右）隣の公園で開催される町会のイベントが「地域づくり」のきっかけになる。
（下中）防災訓練しながら、地域の人の顔を覚えていく。高齢者の存在も把握していく。
（下左）入居者の親睦を深めるために年2回開催するバーベキュー。多世代交流の場だ。

や夕涼みなどのイベントだけでなく、田口さんがビニールプールを出せば、子供たちが集まってくる。子供が出てくれれば、大人も出てくる。まさに「コミュニティ住宅」だ。

「防災」という共通意識で世代を超えた地域づくり

田口さんはもともと町会の青年部部長として活躍していたが、上手くいかないことは山ほどあった。協力してくれる仲間も少なかったし、若手の意見が年配者に受け入れてもらえないことも。〝よそ者〟を受け入れない雰囲気もあった。「イベントに人が集まらないなら、みんなの不満や提案に一つひとつ応えてあげて、まずは参加してもらう。集まって同じ作業をするうちに会話が楽しくて参加者が増えていきます」（田口さん）。イベントが盛り上がれば、他地域に住んでいる孫を連れてくる人もでてきて、世代の〝溝〟も次第に埋まっていった。

町会活動が理解され、感謝されるようになり、「この流れを防災につなげたい」というのが田口さんの目下の課題。足立区は木造密集地域で火災が心配だけでなく、大規模地震や台風による水害の危機感もある。緊急時に高齢者を避難所に誘導できるように「一人暮らしの高齢者がどこにいるか」を把握しておきたいが、個人情報保護のため、交番でも不動産管理会社でも最新の情報は把握しきれていないのが現状だ。だからこそ、日ごろから「顔見知り」になって、声を掛け合うようなコミュニケーションが大切なのだ。

町内２００世帯をまとめる田口さんの「地域づくり」のノウハウには、おおいに学ぶものがある。町会のイベント参加者を多くする努力が、防災につながっている。パルコカーサでは防犯意識も高く、敷地内の防犯カメラと入居者の情報提供で指名手配犯が捕まったこともある。

「コロナ禍で在宅時間が長くなり、ご近所トラブルが多くなりました。そんななか、入居者同士が仲良く、地域にも溶け込んで町会の参加率が高い賃貸住宅は珍しいです」（伊部さん）。ＴＶや新聞などのメディアでも紹介される名物賃貸住宅になったパルコカーサ。「地域づくり」「防災」に発展するモデルケースだ。

ライター 谷口 のりこ

パルコカーサ物件詳細

パルコカーサFacebook

ハウスメイトHP
https://www.housemate.co.jp/

この街から、超高齢化問題に立ち向かう

「高齢者の暮らしを豊島区から考える会」レポート vol.1

参加者
（敬称略）

介護
介護業サイド 世話人 参加者コーディネーター

有限会社 羽吹デザイン事務所
羽吹 さゆり
介護事業部
アモールファティ 代表

介護

株式会社ツクイ
田中 洋子
ツクイ・サンフォレスト東池袋
ホーム長兼訪問介護管理者

介護

株式会社ツクイ
川江 悠加
地域戦略課副主任

不動産
不動産業サイド 世話人 参加者コーディネーター

株式会社ハウスメイトマネジメント
伊部 尚子
ソリューション事業本部
課長

不動産

しろくまホーム株式会社
荒井 法雄
代表取締役

不動産

永幸不動産株式会社
森下 智樹
代表取締役

不動産

公益社団法人
全国宅地建物取引業協会連合会
岡崎 卓也

豊島区

豊島区都市整備部
佐藤 重春
住宅課長

豊島区

（社福）豊島区民社会福祉協議会
小林 純子
中央高齢者総合相談センター長

豊島区

（社福）豊島区民社会福祉協議会
恩田 美子
中央見守り支援事業担当

オブザーバー

サイボウズ株式会社
松村 克彦
社長室
クラウドソーシャルデザイナー

令和3年4月、本誌編集部を事務局に『高齢者の暮らしを豊島区から考える会』が発足された。

いま、高齢者の暮らしにはどのような問題が立ちはだかっているのか。

高齢者のより良い暮らしはどうすれば支えることができるのか。

「一人暮らしの高齢者」の割合が日本一とされる豊島区を拠点に、「超高齢化」を起因として蔓延る現状の問題を洗い出し、その打開に向けて多業種従事者が情報の共有および意見を交わすための場だ。

発足のきっかけは、本誌にて三度にわたり連載をしてきた『豊島区から考える〈どうする？ 超高齢化社会における「命の管理」〉』だった。

深刻化する「超高齢化」問題によって引き起こされる孤独死や、認知症を起因とした住民トラブル、高齢者入居拒否による高齢者の住宅確保困難。連載では、これらの問題によって「命の管理」を余儀なくされている不動産業界の実情に焦点を定め、不動産・介護、それぞれの従事者たちをマッチング。ふたつの業種のコミュニケーションの場を設け、問題解決に向けての試行錯誤の過程を取材してきた。

取材を通じて明るみになったのは、現存の問題の複雑さだ。なかでも、改めて特筆すべき課題は「介護が必要にもかかわらず、介護認定を受けていない高齢者」の存在。不動産管理業者が介入できる入居者のプライバシーにはかなりの制限がある一方で、介護事業所もまた、基本的には介護認定取得者を事業の対象としているため、未取得者と関わりを持つことは難しい。まずは、孤独死や認知症トラブルの予備軍ともいえる「介護が必要にもかかわらず、介護認定を受けていない高齢者」の発見と介護認定取得までの筋道を考える必要があるのではないか。もちろん、高齢者自身の意思の尊重を念頭に置きながら。

この解決策として挙げられたのが、介護保険を使わずに受けられる自費の見守りサービスへの注力や周知活動、行政・自治体等との連携だった。

そこで、新たに発足された『高齢者の暮らしを豊島区から考える会』には、介護と不動産のみならず、行政や自治体、地域包括支援センター（以下、「包括」という。）職員の方々が新たに参加。メンバーの業種幅を広げ、より多角的な視点から「超高齢化」問題および高齢者の暮らしについて考えを巡らせる。

4月末日、オンラインにて執り行われた本会の決起会にも、介護、不動産に加えて、自治体、社協、包括を中心に全11名もの多業種の参加者が豊島区から集った。各業界においての「超高齢化」に対する問題意識の高さがうかがえる。

決起会では、手始めの情報共有として、各所で現在取り組んでいる高齢者の住まいに関する取り組みについてそれぞれご紹介いただいた。

豊島区住宅課長からは、豊島区が推奨している電話での見守りサービスなどを内容とする『見まもっTELプラス』や、住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅の登録制度『住宅セーフティネット制度』、豊島区居住支援協議会が運営する住宅確保要配慮者と空き家をマッチングするシステム『としま居住支援バンク』について。各サービス・システムともに、利用実績や登録戸数の伸び悩みが課題として挙げられた。

豊島区に8か所設置されている地域包括支援センター（豊島区の通称名：高齢者総合相談センター）では、各圏域に2名ずつ『見守り支援事業担当』の職員を配置。各担当は、75歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、3年に一度の実態調査および毎年実施の『熱中症対策事業』によって、見守りが必要な高齢者を把握・リスト化し、社協で募ったボランティア『地域福祉サポーター』や民生委員、地域住民と協力連携しながら見守り活動を続けている。コロナ禍における現状では、対面でのコミュニケーションに時間をかけづらくなっていることが課題だ。

多業種間での情報共有および課題の共有は有意義である一方で、本会における話題の散漫性・恣意性についても指摘の声が挙がった。業種幅が広がり参加人数が増えた今、「超高齢化」問題の打開という大きな展望に加えて、本会が議題として想定すべき直近のゴール、もしくは具体的なターゲット、スタンスについて改めて考える必要があるのではないか。

ライター satomi
編集長 藤井 寿和

『歌う』

〝歌うべき事柄は歌にすべき〟そんなスタンスで38年間やってきています。

シンガーソングライター
嘉門タツオさん

嘉門さん

2018年には、『墓参るDAY♪』『旅立ちの歌』『HEY!浄土』の終活3部作（アルバム『HEY!浄土～生きてるうちが花なんだぜ～』内）を発表。「ようやく、そういう世界も歌える様になったんだと、還暦を迎える実感を伴いながら作りました。歌にするというスキルと長年の経験や蓄積もあり、今だから説得力もある」とおっしゃる、そんな嘉門タツオさんにお話を伺いました。

介護を歌う

今年に入り、伯母でナイチンゲール記章受賞者、看護師の第一人者と言われる川嶋みどりさんのメッセージを歌に乗せた『看護の現場』に続き、介護をテーマとした『おかげさま』を制作された。

きっかけは、介護施設向け旅行サービス〝旅介〟を展開する、東京トラベルパートナーズ株式会社の栗原茂行社長から、オンラインツアーのエンディング曲を打診された事から。「去年から母が介護付きの高齢者施設でお世話になっていましたし、僕にとって必然性がありました。母はどう思っているのかな？そんな思いから『おかげさま』ができました」

80歳の母が記していた事

「母は一人暮らしをしていたのですが、時々エレベーターホールで転んだり、部屋でベッドから落ちたりという事がありました。弟が見に行ってくれていたのですが、だんだんと足腰が弱くなりお手洗いに行くのも時間がかかったりと、ゆくゆくは家族では手に負えんなという時が来るかなとは感じていました」

特別養護老人ホームのショートステイ等を利用しながら、入所できる施設をご兄弟で巡ったそうです。

〝何の悔いもないので一切延命しないでください。楽しい人生でした。ありがとう〟とお母様が80歳時に書かれたものが昨年発見される。「とても活発で活動的

な母でしたが、そういった心境が理解できるような、今面会に行っても、とても穏やかに過ごしています」

介護はケースバイケース

「母が施設に入るまでは、要支援と要介護の違いすら判りませんでした」当事者にならなければ知らない事がある。「知人や仕事仲間でも親や奥さんを介護している人がいますが、誰が関わり、どこで過ごすか、どうしたいかは様々。色々なパターンがある事も、直面して初めて知った事です。しかし当事者になると、その主観で完結してしまうので、そこに行くまでに〝うちはどうなるのかな〟という〝選択肢〟を、予備軍である人たちが認識できるようになるといいですよね」

（左から）半田インタビューアー、嘉門タツオさん、藤井編集長

必要になる前の提案や啓蒙が豊かな事につながる

「昔、母が義母を送る時は、全部最後まで自宅で（介護をした）。紙おむつも無かったですね。そういう時代から比べると、プロフェッショナルな方の仕事のスキルも上がっていますね。母も〝若い人もよくやってくれて有難い〟と言っていました。人手不足というのも聞きますが、僕も見ていて頭が下がる思いです。現場が優遇されて、天職だという方がもっと増えていく社会になって欲しい」

「歌にすると役に立つし、伝わるという確信があります。今後、介護に携わる人へ向けた応援歌や介護のエトセトラも色々と歌えるなと思っています」

『おかげさま』　嘉門タツオ

一

おかげさまで　穏やかな日々です
優しい笑顔に　癒されています
若い頃は　何でも出来たけど
近頃あちこちおぼつかなくて

齢を重ねて　もどかしい事も
焦らず静かに　受け入れています
手を貸して　もらえる事を
感謝して噛み締める黄昏時

ありがとう　愛を込めて
寄り添ってくれてありがとう
毎日　元気もらっています
安心して過ごせています

丁寧に　細やかに
優しさ満ちた　サポート
生きる力もらっています
今日もおかげさま　ありがとう

二

お風呂に入る　時間も好きです
心身共に　くつろいでいます
前向いて　過ごせる様に
促しに救われて　癒される

時間に追われた　懐かしいあの日
陽だまりの中　思い出してます
今はこうして　ゆっくり羽根を
休める喜び　噛み締めてます

ありがとう　愛を込めて
寄り添ってくれてありがとう
毎日　元気もらっています
安心して過ごせています

ありがとう　愛を込めて
寄り添ってくれてありがとう
毎日　癒されてます
今日もありがとう　おかげさま

感謝しています　おかげさま

YouTubeで公開中!

嘉門タツオ
公式チャンネル
YouTube

インタビューアー　半田　あい

人材紹介会社に頼らない

新しいスケッターという採用手法、試してみませんか？

スケッターの目指す世界

既存人材の奪い合いではなく、支える人を共に増やしていく

福祉インフラを維持するカギは、
昔の日本社会にあった互助文化にあります。

インターネット、SNSの普及により、昔よりも「つながり」を作りやすくなった一方で、「助け合い」という暖かさを持った「つながり」が希薄化している現代。

成長のために、誰かを置き去りにする社会ではなく、
「誰かのために、ちょっとのお手伝い」ーー。

年齢、業種、経歴にとらわれず、誰もが自分のできることで介護・福祉に関わる仕組みが必要です。

当社は**一億総福祉人**の時代をつくります。

会社概要

社名：株式会社プラスロボ
ホームページ　：https://www.plusrobo.co.jp/
Sketterサイト：https://www.sketter.jp/

施設送迎の問題を解決します

◇プロのドライバーが担当（二種免許）
◇必要な時に必要な期間のご契約
◇安心の保険加入
◇車両清掃・施設内補助業務対応

当社は医療介護施設を専門に送迎業務を請け負う専門会社です。長期・短期・スポット必要に応じたサービスを提供いたします。

スワールドライバーズ合同会社

TEL 03-6909-8524
E-mail swirl.driving.agency@gmail.com
swirl-service.com

— 介護経営サポートシステム —
SuisuiRemon

実際に現場で働くスタッフの意見を取り入れながら、常に「使いやすさ」を追求して改良し続けています。

Suisuiちゃん

各種介護保険サービス、障害者総合支援、自費サービスに対応!

全国5,500事業所様で利用中! / 全国でのユーザ様も急増 / 介護のセントケアグループ運営の抜群の安心感

SuisuiRemon導入 6つのメリット

売上・入力・債権の明細を一元管理	返戻でお困りの方は効率的な入金管理で回収率アップ	複数事務所の一括管理
簡単便利なスケジュール作成&多彩な入居一時金、前受金管理	介護企業としてのノウハウを活かした介護関連帳票	簡単・便利な保険外サービスの登録・管理

経営・運用資金改善、業務効率化、経費削減にも貢献します!
●早期資金化 ●他社記録連携 ●業務効率化の口座振替えサービス

安心のサポート 電話 FAX・E-mail リモートサポート

バージョンアップも自動更新

アセスメント特化型システム
看護のアイちゃん
訪問看護アセスメント・業務支援システム

メリット1 アセスメントの標準化を支援!放送大学大学院 山内豊明教授監修「新アセスメント手法」完全搭載
メリット2 看護の質を保証!
メリット3 帳票連動により業務負担を軽減!
メリット4 お客様によるバージョンアップは不要!

全国約540ヶ所の在宅介護を運営するセントケア・グループの運営書式集ツール コンフォーム・パッケージ

法定書式集
運用マニュアル
研修内容

1.リスクヘッジ
コンプライアンスの整備から制度改正に迅速に対応することができます。

2.管理コストの抑制・削減
制度対応や研修プログラムの作成等、見えにくい管理コスト(人員)の抑制を可能にします。

3.本部機能の強化
本部主導での統一書式の整備や現場からの質問等に対して迅速な対応を可能にします。

4.サービスの質の担保
新規スタッフのOJTツールおよび毎月の研修ツールにて研修体制を構築できます。

saint-works 介護のセントケアグループ セントワークス株式会社
《 TEL.03-5542-8097 》

メンバー紹介

発行人
髙橋 寿光

発行人及び編集長
藤井 寿和

カメラマン
近藤 浩紀

インタビューアー
半田 あい

ライター
中澤 真弥

ライター
塩野 涼子

ライター
satomi

ライター
秦 佐起代

ライター
藤川 悠子

ライター
谷口 のりこ

アドバイザー
小林 弘和

事業責任者
戸田 昂志

総務責任者
岩﨑 巧磨

デザイン・制作
㈱リードプランニング

広告代理店
㈱ピーコック印刷

発行所　株式会社 是眞
〒115-0041 東京都北区岩淵町 32-11
TEL.03-5939-6682

企画・編集　株式会社 是眞　合同会社 福祉クリエーションジャパン

発行予定　2月、4月、6月、8月、10月、12月

介護施設・広告掲載のお問い合わせは
株式会社 是眞
TEL 03-5939-6682まで

■本誌記事・写真等の無断転載、使用を禁じます。

介護Times【全国版】2021年6月15日発行　発行所／株式会社 是眞　〒115-0041 東京都北区岩淵町32-11　発行人／高橋 寿光　企画・編集／株式会社 是眞

『スケッター』の皆さま

介護Times【全国版】 TOWN 介護 TOKYO

ネットでも読めます！
最新号、バックナンバー

本誌編集長の藤井が運営・管理・監修をする
『介護の資格最短net』で読む事ができます。

介護の資格最短net https://www.acpa-main.org/kaigotimes.html

無料